

**DATA：呼吸器内科**

- 施設認定：日本内科学会認定医制度教育病院、日本呼吸器学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）、日本感染症学会認定研修施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- 主な対象疾患：気管支炎、肺炎、肺癌、気管支喘息、COPD、間質性肺炎、気胸など



呼吸器内科  
HP

## コロナ禍で、がんが減ったのか

日本対がん協会などの調査報告によると、2020年にがんと診断された方は、前年より9.2%減少したという結果が出ました。一見よいことのように思えますが、実はそうではありませんでした。

2020年以降の新型コロナウイルス感染症は、あらゆる社会生活に混乱をもたらしました。issouを読んでもらっている先生方も、大変なご苦勞をされたことと思います。

初めて緊急事態宣言が発出された2020年4月、全国の病院の外来受診者数は、前年同月と比較して約8割となり（厚生労働省公表）、当院でも前年同月と比較し約7割に減少しました。これは、院内での感染防止や3密防止のため、病院側が患者さんの予約を控えざるを得なかったことに加え、行政が健康診断やがん検診を一時中止したことも背景にあります。また、感染に対する不安から、患者さんご自身が通院を延期されたことも影響したと考えられます。おそらく、皆さんの医療機関でも同様の混乱と患者さんご自身による「受診控え」が多く発生したのではないのでしょうか。

[表1] 5つのがんの診断数増減率（2020年と2019年の比較）  
（単位：％）

	1期	2期	3期	4期
胃がん	-17.4	-9.3	-4.5	-4.1
大腸がん	-13.9	-10.3	-7.5	-3.9
肺がん	-5.7	-17.1	-3.8	-4.6
乳がん	-9.7	-6.7	-7.3	+7.7
子宮頸がん	-3.4	+0.2	-2.9	-6.3

（日本対がん協会発表資料より作成）

## コロナ禍の受診控えの影響とは



つまり、冒頭で説明した、がんと診断された方が前年比で減少したという状況は、このようにコロナ禍によりがん検診などの受診率が下がったことに起因すると考えられます。

実際に、2019年と2020年の5つのがん（胃、大腸、肺、乳、子宮頸）の検診受診率を比較すると、2020年は3割も減少したという結果でした。

### 進行がん増加の懸念も

5つのがんの診断率を種類やステージ別に見てみると、2020年に見つかったがんのうち、早期がん（1期）が減少したことがわかりました [表1]。

とくに胃がん、大腸がんは1期で見つかるがんの減少幅が顕著で、それぞれ17.4%、13.9%減少しています。この2つのがん診療は、新型コロナウイルスの感染リスクが高いとされる内視鏡を用いるため、検査へのためらいが患者さん、医療機関双方に生じた可能性も考えられます。当時はマスク、グローブといった防護具などの物品不足に加えて、未曾有の危機に直面した医療機関は手探りで安全な検査体制を

# がん治療における早期発見は、その後の生存率に直結

呼吸器内科

整えなければならず、通常通りの検査が再開されるまでに時間がかかったことと思います。クリニックをはじめ、全ての医療機関で可能な限り安全策を講じながら一步步課題を解決してこられたことと思いますが、このような状況も一因と考えられます。

さらに乳がんでは、2020年の1期の診断数が前年比9.7%減少しましたが、4期の進行した状態で見つかるがんが7.7%増加しました。まだ詳細な調査結果は出ていませんが、これらの結果からみても「受診控え」により、今後がんが進行した状態で発見されることが懸念されています。

## 今一度、健診・検診受診を見直す

ご存知の通り、がんは早期発見できれば5年生存率も高くなります。しかし種類によっては1年で大幅に進行するがんもあり、進行がんの治療では、診断時のステージがその後の生存率や生活の質にも大きな影響を与えてしまうことがあります。

2021年の5つのがんの検診受診者数は、2020年と比べ23.5%増と回復しました。しかし、新型コロナウイルス感染症流行以前の2019年と比べると10.3%減っており、一定の回復はみせているものの、まだコロナ禍の影響が続いているといえます。中でも2019年と2021年のがん検診別受診率を比較すると、胃がんは13.2%減、肺がんは11.0%減となっています。2020年に検診を控えた方の多くが2021年に受診したとみられますが、2019年に受診したものの2020、2021年と2年続けて未受診の方もいると推測されます。

先生方のご負担は増えてしまうかもしれませんが、自覚症状がない早期がんを見つけるためにも、健康診断やがん検診の重要性を今一度、患者さんにお伝えいただければ幸いです。また、コロナ以前の診療体制と同じにはならないかもしれませんが、患者さんを守るためにも、受診率の向上にご協力いただければと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大の波は、今後どのように推移するかわかりません。まだ日常生活にも不安が残りますが、行政や医療機関もこれまで様々な経験を積んできました。また、院内や検査に起因する感染に関しては、多くの学会からも指針が示されるようになり、受診で感染するリスクは低くなっています。しかしながら、今まで通りの感染対策を徹底し、患者さんにも対策をしっかりと頂くことが最も重要です。

コロナ禍が続くなかでも、がん検診をはじめ、健康診断を継続することは重要です。未来の安心のために、定期的な検診を心がけて頂くよう患者さんに促し、がんをはじめとした疾患の早期発見につなげていきましょう。

### Dr's profile



Takeshi Terashima  
寺嶋 毅 医師



#### 出身地

北海道室蘭市

#### 趣味

読書  
韓国宮廷ドラマ鑑賞



#### スポーツ歴

高校時代はサッカー  
大学時代はアイスホッケー



#### 呼吸器内科を選んだきっかけ

「患者さんと対話しながら診察する身近なお医者さん」という自分の医師像に近い診療科だったから

#### 座右の銘

得意淡然、失意泰然

【掲載写真について】 感染症対策を行ったうえ、撮影時のみマスクを外しております。

### 医療機関の先生方へ

市川総合病院 初診事前予約申込書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539

開室時間 月曜日～金曜日：午前9時～午後5時 土曜日：午前9時～午後1時(第2土曜日は休診日)